

## 鶴見川水系・多摩川水系の浸水が想定される地域の皆様に 洪水ハザードマップをお届けします！

水防法改正に伴い、鶴見川水系及び多摩川水系の洪水浸水想定区域の一部が改訂されました。これにあわせて、新たに洪水ハザードマップを作成し、浸水が想定される地域の世帯及び事業所に配付します。

### 配付概要等

- (1) 配付物  
洪水ハザードマップ（A1 版両面刷 + 案内チラシを透明ビニル袋に封入）
- (2) 配付対象  
洪水浸水想定区域内にある全世帯及び全事業所
- (3) 配付方法：  
郵便ポスト等に投函（業者による戸別配付）
- (4) 配付予定数：約 270,000 世帯・事業所（各 1 部）  
鶴見区：約 98,000 神奈川区：約 2,600  
港北区：約 126,500 緑 区：約 16,400  
青葉区：約 10,300 都 筑 区：約 17,000
- (5) 配付開始日：7月 22 日から（予定）
- (6) 区役所窓口での配布：7月 26 日から（予定）
- (7) その他、市ホームページにも掲載します。

[配付物のイメージ]



<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikannri/flood-hmap/>

### 洪水ハザードマップとは？

地域の浸水リスクを知り、洪水時に円滑かつ迅速な避難行動につなげていただくため、河川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域や浸水深、氾濫時の危険箇所、避難場所等を表示しています。

あわせて、市民の皆さまに洪水に関する知識を深めていただくために、情報の入手方法や避難時の心得、日頃の心構え等について学習できる情報も掲載しています [裏面③をご覧ください]。

### これまでの洪水ハザードマップと、どこが変わったの？

平成 27 年の水防法改正を受け、これまでの計画規模の降雨に加え、想定し得る最大規模の降雨により河川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域を掲載しました [裏面①②をご覧ください]。

また、最新の地形データや河川改修等の状況等を反映したほか、新たに、家屋倒壊等氾濫想定区域を掲載しています。

※家屋倒壊等氾濫想定区域…近くの堤防が決壊した等の場合に、家屋が倒壊・流出する危険性が高い区域

裏面あり

## 2つの洪水浸水想定区域の違い

### ① 洪水浸水想定区域 [計画規模]



比較的発生頻度が高く、河川施設整備の基本となる降雨（流域面積や被害程度を考慮して定める）による氾濫を前提とした予測

- ・鶴見川水系：405 mm／2日間雨量
- ・多摩川水系：457 mm／2日間雨量

### ② 洪水浸水想定区域 [想定最大規模]



発生頻度は低いが、想定し得る最大規模の降雨による（施設では防ぎきれない）氾濫を前提とした予測

- ・鶴見川水系：792 mm／2日間雨量
- ・多摩川水系：588 mm／2日間雨量

## 住民の皆さんに知っておいていただきたい情報も掲載しています

発災時の安全かつ迅速な避難行動につながるよう災害が発生する前に、住民の皆様を知っておいていただきたいこととして

- \* 情報の入手方法を、自動配信される [PUSH 型] と、ご自身で情報収集していただく [PULL 型] とに分類して掲載しました。
- \* あらかじめ、避難経路や持ち出し品を確認しておくなど、日頃の備えや心構えを掲載しました。
- \* 警報・注意報や避難情報の各発令段階に応じて とるべき行動例を掲載しました。
- \* 大雨の状況や 安全に避難するための注意事項等を掲載しました。

### ③ 情報面



お問合せ先

総務局情報技術課長

鈴木 卓 Tel 045-671-2143